

基
本
篇

0532

基本篇

◎滿洲國指導要綱

(昭八、八、八)
議決(定八)

方針

大日本帝國ノ滿洲國指導ハ日滿議定書ノ精神ニ基キ滿洲國ヲシテ大日本帝國ト不可分の關係ヲ有スル獨立國家トシテ進歩發展セシムルコトヲ以テ其ノ根本方針ト爲ス

要綱

一、帝國ノ滿洲國指導ハカメテ滿洲國ノ社會的特性ニ順應シ其ノ獨立ノ體面ト舊來ノ慣習トヲ尊重シ
ツツ民族協和ト安居樂業トヲ實現セシメ以テ上下官民ニ光明ト安心トヲ與ヘ萬民喜ンテ建國ノ大業
完成ニ邁進スル如クスルモノトス固ヨリ此ノ間帝國ノ指導的威力ノ絶エサル潜在的躍動ヲ保續スル
ヲ要ス

二、滿洲國ノ國家根本組織、國防、治安及外交ニ關スル事項、日滿經濟運營上特ニ重要ナル基礎的事
項並ニ國礎確立ニ關スル重大内政事項ニ就テハ積極的ニ之ヲ指導スルモ爾餘ノ點ニ就テハ滿洲國要

基本篇

0533

路ノ自由活動ニ委スルモノトス

三、滿洲國ニ對スル指導ハ現制ニ於ケル關東軍司令官兼在滿帝國大使ノ内面的統轄ノ下ニ主トシテ日
系官吏ヲ通シテ實質的ニ之ヲ行ハシムルモノトス

日系官吏ハ滿洲國運営ノ中核タルヘキヲ以テ之カ簡拔推擧ヲ適正ナラシメ之ニ本指導方針ヲ徹底セ
シムルニ付萬遺憾ナキヲ期スルト共ニ特ニ是等日系官吏ノ活動ノ中心ヲ得シメ其ノ統制ニ便スル爲
總務廳中心ノ現制ヲ維持セシムルモノトス

四、滿洲國ハ立憲君主制ヲ究極ノ目標トスルモ當分ハ現制ヲ維持シ正式憲法ハ慎重熟議ノ上之ヲ制定
セシムルモノトス

滿洲國ニ於ケル政黨其ノ他ノ政治的團體ハ當分ニ存在セシメサルコトヲ期スルモノトス

五、滿洲國ノ行政ハ極端ナル中央集權ヲ排シ爲シ得ル限リ地方自治ノ傳統ヲ尊重シ之ト中央集權トノ
調和ニ努メシメ各般制度ノ改革ハ漸ヲ以テ進マシムルモノトス

六、滿洲國ノ陸海軍備ハ國內ノ治安維持上必要ナル限度ニ之ヲ止メシムルト雖モ隣接國ニ對シ必要ナ
ル防禦的設備、艦船等ハ所要ニ應ジ逐次之カ整備ニ努メシムルモノトス

七、滿洲國ノ治安維持ニ就テハ同國成立ノ特殊性ト同國內外ノ事情トニ鑑ミ特ニ査察機關ヲ整備セシ
メ關東軍ト連繫ノ上内外各種ノ國家破壞運動ヲ未然ニ防遏スルコトニ努メシムルモノトス尙治安ニ

0534

關シテハ滿洲民族ノ特性タル自警能力ノ利用ニ遺憾ナキヲ期スルヲ要ス

八、滿洲國ノ外交政策ハ東洋ノ平和ヲ確保シ大義ヲ宇内ニ顯揚セントスル帝國ノ外交政策ニ依據シ之

ト同一步調ニアラシムルモノトス門戸開放機會均等ノ原則ヲ保持セシムルモ其ノ適用ハ主トシテ國防上ノ要求ニ制約セラレサル事項ニ之ヲ限定セシムルモノトス

九、滿洲國ノ經濟政策ハ帝國ノ對世界的經濟力發展ノ根基ヲ確立シ併セテ滿洲國ノ經濟力ヲ強化スル爲日滿兩國經濟ヲ合理的ニ融合スルコトヲ目標トシ且國民生活ノ向上ト平衡平トヲ保障スル如ク策定スルモノトス

一〇、滿洲國ノ經濟開發ハ日滿共存共榮ヲ精神トシ其ノ帝國國防上ノ要求ニ制約セララルモノハ之ヲ帝國ノ實權下ニ置クモ其ノ他ノモノハ滿洲國ノ實權下ニ於テ適宜内外人ノ公正自由ナル經濟活動ニ依ラシムルモノトス

一一、滿洲國ニ於ケル交通及通信ハ國防及治安維持ト特ニ緊密ナル關係ヲ有スルヲ以テ帝國政府ノ實權下ニ於テ出來得ル限リ速ニ諸施設ノ統一的整備發達ヲ期セシムルモノトス

一二、滿洲國ノ財政ハ國民負擔ノ適正ヲ考慮シツツ速ニ之ヲ確立セシムルト共ニ帝國駐滿海軍費ヲ分擔スルノ責ヲ舉サシムルモノトス帝國政府關係ノ對支固定借款中滿洲國ニ關係アル部分ノ利用乃至回收ニ就テハ滿洲國ノ財政其ノ他ノ事情ヲ考慮シ其ノ處置ヲ講スルモノトス

一三、滿洲國民ノ教化ニ就テハ同國民ヲシテ同國ノ帝國ニ對スル不可分の關係ヲ自覺セシムルト共ニ東洋平和確保ノ特殊使命ヲ有スルコトノ自尊心及五族協和ノ理想ヲ涵養セシムルコトヲ主眼トシ且勞作教育ニ力點ヲ注キ實業教育ヲ振興セシムルモノトス

一四、滿洲國ノ司法ニ關シテハ特ニ同國ノ國民性ト習俗トヲ尊重シ速ニ法制ノ整備及組織ノ充實ヲ圖リ遍ク遵法ノ美風ヲ養成セシムルモノト共ニ對外的信用ノ確立ヲ期シ以テ治外法權ノ漸進的撤廢ヲ實現スルコトニ努メシムルモノトス

(備考)

本件滿洲國指導方針要綱ニ基ク具體的方策決定ニ關シテハ從來通必要ニ應シ對滿蒙實行策案審議委員會、對滿金融審議委員會又ハ日滿產業統制委員會ノ議ヲ經其ノ特ニ重要ナルモノニ付テハ閣議決定ヲ經ルモノトス

◎滿洲國指導ノ根本

一、滿洲國指導精神ノ確立

(一)抑々日滿ノ關係ハ、天皇ヲ中心トスニ所謂、皇道聯合的思想ヲ以テ根軸トシ、滿洲國獨立國家ト

0536

シテノ育成ハ皇道主義ニ基ク民族嚮導、日本文化ノ建設ニ依ル世界萬邦協和ヘノ躍進段階ヲ形成スルヲ以テ基本トス

即チ滿洲國ハ 天皇ノ御心ヲ奉體セル皇帝ヲ中心トシテ一德一心、畏クモ之ヲ日月ノ關係ニ擬シ獨立國家トシテ儼存育成シ、以テ國際的ニハ對外調整ニ資シ對內的ニハ民心把制ヲ容易ナラシムルト共ニ、日本民族ハ前記大使命達成ノ爲、自ラ優秀ナル國家ノ構成要素トシテ官邊民間到處ニ介在シ、公私各般ノ職務並業務ニ從事シ徒ラニ官權ノ保護ニ依據スルコトナク其實力ヲ以テ自ラ其使命ヲ開拓シ、各民族ノ先達トシテ渾然融合ノ實ヲ擧ケ爰ニ完全ナル不可分ノ關係ヲ結成セサルヘカラス

素ヨリ、兩國國家トシテ、日滿議定書ヲ締結シテ、共同防衛ヲ盟約シ、或ハ外交、經濟其他ノ條約協定上ノ措置ニ於テモ合理的融合ヲ策シ不可分關係ヲ律シアルモ眞ノ意味ノ不可分ハ日本民族自ラ、事實問題トシテ萬般ニ介入スルニ存ス

從テ條約協定ハ簡易ヲ旨トシ運用ノ妙ヲ發揮セシムルヲ以テ主眼トシアル所以ナリ、徒ラニ外交的又ハ行政的干與ヲ行ハントスルカ如キハ之ヲ戒メサル可ラス

(二)日滿ノ基本的關係前述ノ如ク、之レ、建國以降滿洲國指導ニ關スル陸軍ノ根本主張ナリ、從テ左ノ二思想ハ之ヲ根絶スルヲ要ス

即チ其一ハ國際的影響ノミヲ顧慮シ原有民族ノミノ獨立國家トシテ育成シ日本人ハ過渡期ノ「ア
 ドバイサー」ノ地位タラントスルモノニシテ、諸般ノ不可分關係ヲ條約上ニ求メントシ、日本人
 ノ立場ハ自ラ民族協和ヨリ游離シ、權利ノ代償ヲ條約法文上ニ求メ、表面獨立ヲ尊重スルモ單ニ
 條約上ノ形式ノミノ調整ニ過キスシテ内心ハ權益思想ナリ

其二ハ所謂不可分關係ノ強調ニシテ、皇道聯合内ノ一獨立國家タルノ意義ニ徹底セス徒ニ不可分
 關係ヲ内政干與上ニ求メ、或ハ帝國官邊ノ保護ヲ強化セントシ、若クハ日本人中心ノ權益擁護ヲ
 圖ル等、要スルニ隸屬視シ、保護國視スル思想ニシテ、國家トシテノ協力ト、民族トシテノ融合
 ヲ混同セル論ナリ

二、滿洲國ノ指導要領

(一) 指導方式ノ主眼點

日滿議定書其他條約協定ニ基ク對滿關係事項竝内政上ノ對滿關係事項ハ太々主管大臣國務上ノ輔
 弼ヲ行ヒ統帥ニ付テハ亦統帥上ノ輔翼ヲ行ハレアルモ、所謂内面指導ハ全ク國務輔弼及統帥輔翼
 ノ範域ヲ離レタル建國ノ特殊性ニ基ク特殊ノ事實行爲ニシテ、政治、經濟、國防、外交凡百ノ範
 圍ニ及フモノトス之レ陸軍傳統ノ主張ナリ

即チ關東軍司令官ハ建國ノ經緯ト共有スル機能乃至威武信賴ニ基キ、天皇ノ御心ヲ奉シテ、皇帝

ヲ輔導シ、滿洲國政府ノ指導ニ任スヘキ最適者トシテ内面指導ヲ行ヒ、協力シ、啓發シ、支援シアルモノナリ、從テ其指導ハ斷シテ表面化スヘキ筋合ノモノニアラス尤モ條約、協定等ヲ基礎トスル對滿政策ノ遂行ハ全權大使若クハ軍司令官之ヲ主管ニ從ヒ、公式若クハ内密ニ實施シ其兼任ニ依リテ國務ト統帥トノ回滑ヲ期シアルモ、所謂前述セル内面指導トハ自ラ別個ノモノニシテ、

八・八閣議第三項ハ當時ノ國內情勢上其表現ニ明確ヲ缺キシ憾アルモノトス

(二)關東軍中心ノ一元的運營
關東軍司令官カ全權大使ヲ兼任シ滿洲國指導上ノ中樞ニシテ將又帝國駐滿諸機關ノ中心トシテ滿洲ニ於ケル所謂實質的最高地位ノ立場ニ在ルハ日滿軍官民間ニ於テ一點ノ疑義ナク又今日及將來ニ亘リ持續スルノ要アルハ概ネ之ヲ是認シアル所ナリ、併シ乍ラ關東軍ハ日本國ノ關東軍ニシテ滿洲國ノ中心ニアラス軍司令官ノ行フ指導乃至權限行使ニ關シテハ今日重大ナル内省ヲ行ハサルトキハ單ニ自ラ獨立不可分ノ滿洲國指導精神ヲ否定スルノミナラス、滿洲國建設ニ對スル日滿朝野ノ協力ヲ缺キ若クハ衆庶ノ信賴ヲ失ヒ日滿關係竝滿洲國ノ結成上ニ重大ナル惡影響ヲ與フル虞アルヘシ

抑々滿洲國及關東州ニ於ケル帝國軍、官權ノ作用ヲ見ルニ概ネ左ノ三種ニ區分スルコトヲ得ヘシ
(1)中央(軍中央部並政
府中央關係處)ヨリ出先ヲ通シ滿洲國內及關東州内各關係方面ニ及フヘキモノ例ヘハ

- (イ) 軍ノ統帥、軍政事項、外交、行政上中央統轄事項
 - (ロ) 守勢軍事協定ニ依ル指導權ノ確立
 - (ハ) 外交ノ事前協議中重要事項
 - (ニ) 日滿經濟共同委員會ノ日本側ニ關スル件中重要事項
 - (ホ) 滿鐵、電々會社等ノ監督中重要事項
 - (ヘ) 右以外條約協定上ノ諸案件中重要事項
- 之等ハ中央ノ方針ニ則リ中央出先渾然一體トナリテ處理スルヲ要ス
- (2) 軍司令官ハ全權大使トシテ條約、官制等ニ則リ共有スル權限ニ基キ之ヲ行使シ、或ハ滿洲國ヲ指導シ得ルモノ例ヘハ
- (イ) 出先官權權限移管事項
 - (ロ) 日系官吏等ノ人事推薦權ノ行使
 - (ハ) 航空交通等ノ管理權ノ行使
 - (ニ) 地方的協定ニ基ク治安維持等ニ關スル必要事項
 - (ホ) 其他條約協定上出先ニ於テ處理シ得ル事項
- 本件ノ處理ニ於テモ秘密條約協定等ニ基ク滿洲國ノ指導等ハ充分相手方ノ體面乃至權限尊重ヲ

0540

念トシ、其行使ニ方リ格段ノ配慮ヲ加ヘ、事項ニ應シ各特殊ノ目的ヲ有スル秘密協定ノ趣旨ヲ
没却セサルコト必要ナリ

(3) 主トシテ軍司令官ノ内面指導ニ依ルヘキモノ

本件ハ日本政府各廳ノ直接的政治責任ヲ伴ハス、現地軍司令官カ前述建國ノ經緯其他ニ基ク事
實行爲トシテ滿洲國指導育成ノ基本國策ニ則リ内面指導ニ任スルモノナリ其範圍尨大ナルモ運
用ハ逐次自ラ努メテ制限スルヲ可トス

以上三系統ハ指導上軍ヲ中心ニ一元的ニ連繫シ得ルヲ要スルモ其運營ニ際シテハ多元的ニシテ可
ナリ然ルニ往々統帥、軍政系統ノ一部者中ニハ軍事ノ一元化、治安ノ一元化等ヲ理由トシ滿洲國
ニ對シ恰モ隸屬的見解ヲ以テ臨ミ滿洲國政治經濟建設指導系統ノ一部者ニ於テハ所謂軍カ最高地
位的立場ニ在ル爲、内面指導ヲ忘却シテ、表面的指導ヲ行ヒ、結局之等ハ武官總督的指導ヲ行フ
結果トナリ軍自ラ獨立不可分説ヲ否定スルニ至リツツアリ

◎滿洲帝國協和會ノ根本精神

(關東軍司令部)

一、滿洲帝國ノ政治ノ特質

基 本 篇

滿洲國ノ政治ハ民主主義的議會政治ノ型ニ倣ハス、專制政治ノ弊ニ陥ラス、民族協和シ正シキ民意ヲ反映セル官民一途ノ獨創的玉道政治ヲ實現ス

二、協和會設立ノ意義

協和會ハ滿洲建國ト共ニ生レ國家機構トシテ定メタル團體ニシテ建國精神ヲ無窮ニ護持シ國民ヲ訓練シ其理想ヲ實現スヘキ唯一ノ思想的、教化的、政治的實踐組織體ナリ
實踐シテ偏スルナク結合シテ私スルナシ

三、滿洲國政府ト協和會トノ關係

建國精神ノ真髓ハ協和會ノ體得スヘキ唯一絕對ノモノナリ
建國精神ノ政治的發動顯現ハ滿洲國政府ニ據リ其思想的、教化的、政治的實踐ハ協和會ニ據ルヘク民意ノ暢達之ニ依リテ期スヘシ
從ツテ協和會ハ政府ノ從屬機關ニ非ス、對立機關ニ非ス、政府ノ精神的母體ナリ、政府ハ建國精神即協和會精神ノ上ニ構成セラレタル機關ニシテ其官吏ハ協和會精神ノ最高熱烈ナル體得者タルヘキモノナリ
眞ノ協和會員カ政府ニ入り又ハ野ニ在リテ政治經濟ヲ指導シ思想ヲ善導シ建國精神ヲ以テ全國民ノ動員ヲ完成スル時王道政治ノ實現ハ期待セラルヘシ

昭和十一年九月十八日

關東軍司令官 植田 謙吉

◎滿洲國ノ根本理念ト協和會ノ本質ニ就テ

(關東軍司令部)

滿洲國ノ根本理念ト協和會ノ本質トハ建國以來一貫不動ノモノナルモ動モスレハ歪曲
誤解セラレ易キニ鑑ミ茲ニ軍司令官ノ意圖ヲ體シ永久ニ其據ル所ヲ明カナラシメントス

昭和十一年九月一八日

關東軍參謀長 板垣征四郎

一、滿洲建國ノ世界史的意義

階級闘争ヲ手段トシ無産階級ヲ煽動シテ其國際的提携支援ニヨリ世界革命ヲ企圖スル蘇聯ノ野望ト資本主義的侵略ニヨリ殖民地ノ膏血ヲ搾取シテ本國人ノ安逸ヲ計ラントスル英、米、佛、和等ノ世界政策トハ其ニ其不純功利的ナ當然ノ酬イトシテ幻滅ノ方向ヲ辿ラウトシテ居ル時ニ、獨リ皇道ヲ基調トシ共存共榮ヲ目的トスル我道義的世界政策ニノミ赫々タル光明ヲ認メラル

滿洲建國ハ「六合ヲ兼テ都ヲ開キ八紘ヲ掩ヒテ宇トナスヘキ」我肇國以來ノ大理想ヲ顯現スル爲ノ第一

基本篇

一一

0543

一段階テアツテ、天皇ノ御稜威ニヨリ舊東北軍權ノ暴政ニ苦惱シツツアツタ三千萬民衆ヲ救ヒ更ニ全亞細亞民族ヲ白人ノ桎梏ヨリ解放シ次イテ白人共ニモ覺醒ノ機ヲ與ヘルヘキ大使命ヲ實現スル爲ノ第一歩的意義ヲ有スルモノテアル

即チ強權ヲ以テ侵略征服スル霸道テハナク宛モ太陽カ六合ヲ照シハ絃ヲ掩ヒ萬物ヲ無限ニ生成發育セシメル様ナ絶對愛即チ皇道ニ立脚スルモノテアル

滿洲國ノ指導ニ關シテハ建國當時ニ於テ既ニ上述ノ理想ニ基キ我帝國ト不可分ノ獨立國家トシテ育成スルコトニ其大方針カ確定セラレタノテアル

實ニ我大和民族ハ内ニハ優秀ナル資質ト卓越セル實力トヲ有シナカラ外ニハ寛仁謙讓ノ態度ヲ以テ他民族ニ交ハリ裸一貫何等ノ特權モ持タナイ平等ノ境地ニ於テ俯仰天地ニ愧テス中外ニ施シテ悖ラサル道義ヲ以テ他ノ民族ヲ指導啓蒙シ宛モ長兄カ血ヲ分ケタ弟ニ對スル如キ慈愛ヲ以テ其足ヲナイ黠ヲ補ヒ努メナイ者ニハ大慈ノ鞭ヲ加ヘマツロハナイ者ハ顯正ノ劍ニヨツテマツロハセ恩威並ヒ行ヒ我ニ悅服信賴シ進ンテ道義ニヨル世界ノ再建ニ協力セシメ以テ天皇ノ大御心ニ副ヒ奉ルヘキ天與ノ使命ヲ有スルモノテアル

治外法權ヲ我ヨリ自發的ニ一方的ニ撤廢シタ眞精神ハ即チ在滿大和民族カ進ンテ特惠的條件ヲ放棄シ喜ンテ平等ノ境地ニ立チ他民族ト共ニ榮エントスル決意ヲ内外ニ闡明シタモノテアル

萬一滿洲ヲ以テ日本ノ屬國カ又ハ保護國乃至植民地ノ様ニ考ヘルモハカアツタナラ夫レハ大ナル誤テアル、又英、佛等ノ植民政策ニ見ル様ニ各種民族ヲ操縱離間シ之ヲ對立相剋サセテ結束シテ背反スルカラ滅殺スル様ナコトヤ或ハ故意ニ此等民族ヲ低文化無教育ノ状態ニ放置シ或ハ蘇聯カ階級闘争ニヨリ各民族内部ニ革命運動ヲ醸成サセル様ナコトヤ或ハ清朝ノ蒙古政策ニ見ル様ニ他民族ヲ去勢シ無氣力、衰滅ニ導カウトシタ様ナ非道義的、權謀的、欺瞞政策ハ我國是ニ鑑ミ斷シテ採ラナイ所テアル各民族ハ各々其傳統ト希望トヲ持ツテ居ル從ツテ之ヲ強權ヲ以テ壓迫スレハ一時的ニハ屏息隨從スルテアラウカ結局ハ其民族ヲ絶滅サセナイ限り何時カハ反噬離反スルモノテアルコトハ英國ノ愛蘭統治ニ見テモ明カテアル

是即チ冒頭ニ述ヘタ諸國ノ世界政策カ何レモ幻滅ノ悲運ニ際會シテ居ル原因テアルト共ニ道義ヲ基調トシ共存共榮ヲ信條トスル我皇國獨自ノ世界政策ニ赫々タル光明ヲ認メラレル反證テアル
我一部ノ國民中ニモ「滿洲國ハ獨立國家テアツテ何時背反スルカ判ラナイカラ條約等テ強ク縛ツテ置ク必要カアル」ト云フ様ナ考ヘテ抱イテ居ル者カアルカモ知レヌカ此ノ様ナ考ヘハ西洋的、法文至上主義ヨリ發シタモノテ極メテ消極的思想テアリ、天皇ノ大御心ヲ奉體シテ天壤ト共ニ無窮ニ發展スル大和民族ノ信念ト矜持トヲ有シナイモノノ思想テアル

二、建國精神ノ眞義

基本篇

滿洲建國ハ前述ノ様ニ道義世界完成ノ第一段階テアツテ其建國ノ根本精神ハ究極スル所日本精神ニ一致シ天皇ノ大御心ニ歸着スルモノテアル

其發スルヤ舊東北軍權ノ暴虐ヨリ三千萬民衆ヲ救ヒ次イテ久シク白人ノ專制搾取下ニ苦シシテ居タ全亞細亞民族ヲ解放セントスル大慈大悲ノ勇猛心トナリ其結フヤ日滿ノ一徳一心トナリ民族協和トナリ其實ルヤ王道樂土ノ完成トナリ延イテハ支那四億ノ民ヲシテ自ラ滿洲國ヲ渴仰羨望サセ又求メスシテ印度三億ノ民ニ自覺ヲ促シ全亞細亞全世界ヲシテ期セスシテ天皇ノ大御心ニ歸依シ道義世界ノ再建ニ偕行協力セシメル様ナ無限ノ發展性ヲ有スルモノテアル

換言スレハ滿洲國ノ建國精神トハ日滿一徳一心民族協和王道樂土道義世界ノ實現ヲ理想トスル天皇ノ大御心ニ外ナラナイモノテアル

三、日滿一體不可分ノ眞義

滿洲國ハ建國ノ本義ニ基キ日本ト皇道ニヨツテ固ク結合シタ所謂皇道聯邦内ニ於ケル一獨立國家テアル

皇道聯邦トハ決シテ權力ト服從ノ關係ヨリ生スルモノデハナク四海ニ光被スル天皇ノ御稜威ノ下ニ萬邦カ喜ンテ生成發展シ侵略ナク搾取ナク日本ヲ精神的道義的盟主トシテ結成セラルヘキ一大聯合國家群ノ姿テアル

核分子トシテ偕ニ其國家ヲ形成シテ居ルモノテアル換言スレハ日本ト滿洲國トハ其構成内容ニ於テ血ヲ分ケタ國家テアル印度ニ於ケル英國人ノ立場（征服者）ト滿洲ニ於ケル日本人ノ立場（特權ヲ放棄セル一構成分子）トハ其根底ニ於テ全然異ツタ點カアルコトヲ判然認識シ又認識サセネハナラヌ

四、滿洲國政治ノ特色

日滿一徳一心、民族協和、王道樂土、道義世界ノ實現ヲ理想トスル滿洲國ノ政治ハ弊害多キ過去ノ政治形態ニ執着スルコトナク、眞ニ新國家ノ本質ト實情トニ適合スル公明正大ノモノテナクテハナラナイ、從ツテ

一、滿洲國ニ於テハ議會政治ヲ否定スル

議會政治ハ民主的、唯物的ノ政治ニ墮シ又所謂衆愚ノ政治ニ陥リ易イ、文化ノ程度未タ十分ナラサル滿洲國ニ於テ特ニ然ルノテアル。又議會政治ナルモノハ必然的ニ政黨政治ヲ誘導シ、黨利ニ偏シ、黨略ニ陥リ遂ニハ朝野兩黨ノ對立抗爭ノミニ止ラス四海同胞ノ國家ヲ化シテ仇敵雜居ノ國家トナス虞カアル。我滿洲國ノ如ク絶對ニ民族的對立ヲ排除シ、一貫セル方針ノ下ニ計畫的施設ヲ進メ以テ民族協和、安居樂業ノ平和境ヲ出現セシメントスル國家ニ於テハ議會政治ハ正ニ否定セララルヘキテアル

二、滿洲國ニ於テハ專制政治ヲ排斥スル

共產黨專制ニヨル蘇聯ノ政治形態、又ハ蔣介石政権ニヨル武斷專制ノ中國政治ハ共ニ道義國家タル
滿洲國ノ運営ニ即應シナイモノテアル、蘇聯ノ暴壓政治ハ蘇聯邦特異ノ國情ヲ基礎トシタモノテ同
國ニノミ強行セラルヘキモノテアリ、又武權專制ノ中國政治ハ其變態的現狀ニ於テノミ強行シ得ル
ノテアツテ兩者共ニ其人民ヲ窮迫困厄ノドン底ニ陥ラシメテオル、此ノ様ナ政治組織カ滿洲國ノ本
質ニ合致シ得ナイコトハ勿論テアル

三、滿洲國ハ王道政治ノ實現ヲ企圖スル

王道政治ハ哲人政治テアル、是ハ禪讓放伐ヲ肯定スル支那舊來ノ所謂王道思想ニ基ク政治トハ其趣
旨ヲ異ニシ大日本 天皇ノ大御心ヲ政治上ニ顯現完成スルコトヲ理想トスルモノテアル、即チ動モ
スレハ國家本位ヨリ離レ黨爭ノ弊ニ陥リ、或ハ衆愚ノ政治ニ流レ易イ議會政治ノ弊ニ倣フコトナク、
又私人私黨ノ利權ニ趨リ易イ專制政治ノ弊ニ陥ルコトナク、只管、王道義ノ顯揚ト人民ノ康福トヲ庶幾
ハセ給フ、天皇ノ大御心ヲ以テ心トスル哲人及哲人的組織體ニヨツテ運営セラルル政治カ即チ王
道政治テアル

五、滿洲國政治(王道政治)ノ運営

(皇帝、軍司令官、政府、協和會ノ相關)

王道政治ハ皇道ヲ生命トスル哲人及哲人的組織體ニヨリ運営セラルヘキモノテアルコトハ前述ノ通り

テアル、然ラハ滿洲國ニ於ケル政治ハ如何ナル哲人、如何ナル哲人の組織體ニ依リ運營セラルヘキテアラウカ

滿洲國皇帝ハ其回鑾訓民ノ詔書ニ明示シ給ヘル如ク一徳一心大日本 天皇ノ大御心ヲ御心トセララル意義ニ於テ哲人テアリ 天皇ノ御名代タル軍司令官ノ御後見ニヨリ滿洲國ニ於ケル王道政治ノ中心タルヘキモノテアル

滿洲國政府ハ皇帝ヲ中心トシテ建國精神ヲ政治的ニ發動顯現セシムルモノテアリ其構成分子タル官吏ハ建國精神ノ體得者中ヨリ任命セラルヘキテアル

(政府及官吏ノ性質右ノ如クテアルカラ萬一政府ノ行フ所ニシテ建國ノ精神ニ背馳スルニ至ツタナラハ既ニ其資格ハ喪失セラレ其存在ハ許サルヘカラサルモノテアリ、其官吏ニシテ建國ノ理念ニ反スルモノアラハ之亦即時滿洲國外ニ去ラシムヘキモノテアル)

關東軍司令官ハ畏クモ 天皇ノ大御心ヲ奉シ其ノ御名代タル資格ニ於テ公人の哲人トシテ皇帝ノ御輔導ニ任シ且大御心ヲ奉シテ滿洲國政府ノ内面指導ニ任スルモノテアル

以上述ヘタ様ニ政府ハ皇帝ヲ中心トシテ官治機構ヲ構成スルガ未タ之ノミヲ以テ哲人の政治ノ機構カ完成シタトハ謂ヒ得ナイノテアル

蓋シ滿洲國ハ建國日尙淺ク未タ一般ニ建國精神ノ眞義カ徹底セス、國內諸民族ハ從來必スシモ和親ナ

0550

リト云フヲ得ス、寧ロ對立抗爭ノ歴史ヲ有シ又國際情勢ヲ考察スルニ列國中ニハ滿洲國ノ發展ヲ慨ハ
ナイモノカアリ、就中接壤隣邦中ニハ思想的ニ武力的ニ滿洲國ヲ攪亂シテ反滿抗日ノ氣運ヲ作ラント
企圖シテ居ルモノカアリ、而モ國內民族中ニハ民族性ト地理的歴史的關係ヨリシテ隣邦ノ攪亂工作ニ
感染シ易キ特性ヲ有シテ居ルモノカアル、斯ノ如キ不健全ナル環境ニ於テ是等ノ障礙ニ對抗シ之ヲ排
除シテ 天皇ノ大御心ニ基ク建國精神ヲ普及徹底シ如何ナル外力作用カアツテモ巍然トシテ建國精神
ヲ堅持スル國民ヲ養成スルコトハ眞ニ國家ノ大業ニシテ政府機構ノミニ委シテナシ得ルモノテハナイ
加之滿洲國民ノ大部ハ三千年來官治行政ニ虐ケラレタ歴史コソアレ之ニヨツテ慈育セラレタ經驗ヲ持
タナイ、從ツテ民衆ハ動ミモスレハ政府ト官吏トヲ目シテ苛斂誅求ノ暴壓者ト做スコトハアツテモ之
ヲ以テ民衆ノ慈育者テアリ、其生命財產及生活ノ保護者タリト信賴シテ赤裸々ノ氣分ヲ以テ接近シテ
來ル様ナコトハ容易ニ望ミ得ナイ所テアル

固ヨリ滿洲國政府ノ官吏ハ建國精神ノ體得者中ヨリ任命セラレ燃ヘルカ如キ熱誠ヲ以テ民衆ニ接シ之
ニ對シテ建國精神ヲ注入スルコトニ努ムヘキコトハ勿論テアルカ其立場ハ兎角日常行政ノ處理ニ忙殺
セラレ又必然的ニ官治行政ノ分野以上ニ民衆生活ノ内部ニ深ク滲透スルコトハ不可能ナモノテアル
茲ニ於テカ建國精神ヲ普及徹底シ如何ナル誘惑策動ニ對シテモ之ヲ堅持シ實踐スル國民ヲ養成スヘキ
全國的組織ヲ必要トスルモノデアツテ其機關カ野ニ在リテ政府ノ政治的發動ニ照應シ民衆ト共ニ自ラ

ノ實踐ヲ以テ之ヲ教導シ建國精神ノ眞義ヲ民衆ニ徹底セシメ以テ日滿一徳一心ニ基ク眞ノ王道樂土ヲ建設シ民族協和シテ道義世界ヲ實現セシムル様ニ努メル必要カアル此必然的要求ヨリ生レタモノカ即チ滿洲帝國協和會テアル

以上述ヘタル所ノ皇帝、軍司令官、政府、協和會カ渾然一體ノ哲人的組織體トナリテ活動スル時始メテ王道政治ノ實現ヲ期待シ得ルノテアル

(協和會設立ノ歴史)

協和會ハ其淵源ヲ滿洲事變前ニ於ケル舊東北軍權ノ飽クナキ暴政、壓迫、搾取ニ對スル民衆ノ奮起ニ端ヲ發シ之ヲ膺懲スル爲ニ滿洲青年聯盟及雄拳會等ノ結成トナツテ現ハレ日滿憂國ノ志士ヲ核心トシテ皇道國家ノ建設ニ獻身の活動ヲ爲シ次テ國家ノ公的機關タル自治指導部トナリテ建國運動ニ盡瘁シ軍司令官ノ直系指導下ニ於テ或ハ匪賊ノ討伐ニ隨伴シ或ハ軍閥暴政ノ社會的汚毒ヲ肅正シ建國精神ヲ思想的ニ、教化的ニ、政治的ニ實踐具現セシメルコトヲ生命トシテ建國ノ天業ニ參與貢獻シ各民族合意合作ノ國家完成ニ努力シ來ツタモノテアル

昭和七年七月滿洲國協和會カ國家機關トシテ設立セラレタカ實質的ニ其前身ハ前述ノ如ク建國ニ先タチテ産レテ居タモノト見ルヘキテアル

六、滿洲帝國協和會ノ本質ト其使命

滿洲帝國協和會ハ官民一途ノ全國的組織體テ、アツテ皇帝ハ協和會精神ノ最高具現者トシテ軍司令官ノ御後見ニヨリ協和會指導ノ中核タルモノデアル

而シテ其使命トスル所ハ建國精神ヲ全國民ニ徹底シ之カ實現ニ身命ヲ惜マサル熱烈ナル建國精神ノ體得者ヲ養成スルト共ニ政府ノ政治的發動顯現ニ照應シ、教化的、思想的、政治的ニ實踐シ、民衆ヲ教導シ、且ツ政府ノ行フ所ヲシテ民情ニ即セシムルニカムルノデアル

爲之民族ト階級ト職域ノ如何ヲ問ハス眞ニ同志タリ得ル資質ヲ有スルモノヲ簡拔シ、指導シ、訓練シ、陶冶シテ如何ナル困難如何ナル障礙ニ會スルモ、毫モ屈セス撓マス、死力ヲ盡シテ建國精神ヲ護持シ、實踐シ而モ燃ユルカ如キ熱情ヲ以テ四周ノ同胞ヲ感化シ、指導シ、得ル眞ノ協和會員ヲ獲得シ、此等會員ノ協力奮闘ニ依リ遂ニ全國民ヲ誘導教化シ以テ建國精神ヲ滿洲全土ニ徹底セシムルコトカ絕對必要デアル

又野ニ在ル協和會員カ民衆ト共ニ實踐シ垂範シ建國精神ノ顯現ニ努ムルト共ニ民意ヲ未然ニ察シテ之ヲ政府ニ通シ政府ノ行フ所ヲシテ民衆ノ實際生活ニ即應セシメ、依ツテ以テ哲人政治ヲシテ專制政治ニ陥ラシメス、官民ヲ結合シ「政治ノ發動ト其實踐」トヲ調和融合シテ始メテ能ク滿洲國ノ健全ナル發達ヲ圖リ得ルノデアル

皇道宣布ノ使命ヲ有スル組織體ヲ協和會ノ名ヲ以テスル所以ノモノハ斯ノ大偉業カ天ノ時（滿洲事變）地ノ利（大陸ノ一角）ニ依リテ發生セリト雖人ノ和ヲ以テ更ニ重要ナル素因トシ特ニ數民族合

作ノ新國家ノ基礎確立ニハ民族協和ヲ以テ先決ノ要件ト爲スカラテアル

「即チ同一理念ヲ有スル血盟的同志ヲ各民族間ニ求メ民族内部並相互ノ融和結合ヲ圖リ外力又ハ内争ニ依ツテ民族ノ分裂解體運動カ起ル様ナ場合ニ於テモ之ヲ未然ニ防止シ所謂砂ヲ堅メルセメントノ作用ヲ爲スモノテアル」

七、協和會ト政權

協和會ノ本質ト其使命ハ前述ノ如クテアツテ政權獲得ヲ唯一ノ目標トスル現存政黨ノ如キモノトハ斷シテ其軌ヲ同ウスルモノテハナイ即チ求ムルコトナキ絶對愛ヲ以テ政府ヲ抱擁スル精神的母體テアツテ其主張スル所ハ寸毫モ權利ノ獲得テハナク又其實踐スル所ハ法ニ縛ラレタ義務テモナイ、政府ト協和會トハ唯其職能ヲ異ニスルト雖相呼應シテ官民一體建國精神ノ實現道義世界ノ完成ヲ期スルモノテアル

右ノ如キヲ以テ協和會ハ政府ノ從屬機關タラサルト共ニ又斷シテ政府ト對立スル機關テモナイ、從ツテ協和會ハ議會政治ニ見ルカ如ク野黨ノ立場ニ於テ故意ニ政府ノ施設ヲ論難攻撃スルモノテモナク又與黨トシテ政府ト苟合シ野次ト腕力トヲ以テ野黨ヲ制壓セントスル様ナ低級ナ政黨テモナイ即チ結合シテ私利私權ニ趨ルコトナク實踐シテ一方ニ偏スルコトナキ唯一永久ノ有機的實踐組織體テアル

0554

而シテ政府ノ官吏ハ熱烈ナル建國精神ノ體得者ヲナケレハナラナイ必然ノ結果トシテ協和會員中ヨリ之ヲ求メラルヘキテアル

右ノ如ク官吏ハ固ヨリ熱烈ナル協和會員ナリト雖官治ノ分野ニ於ケル職責ハ政府官規ノ統制ヲ受ケルモノデアツテ政治的發動顯現ニ關スル指導ヲ協和會機關ニ仰クモノテハナイ從ツテ協和會ト政權トノ混淆ヲ來スカ如キコトハ在リ得ナイノテアル

八、軍司令官ノ内面指導ト政府及協和會各首腦者

協和會ノ本質ハ前述ノ通りデアツテ時代ト人ニヨツテ其解釋ヲ異ニスヘキモノテハナイ、滿洲國ニ於テハ軍、官、民ト民族ノ如何ヲ問ハス進ンテ協和會ニ入り相互ニ切磋琢磨シテ其發展ヲ計リ官吏ハ官吏ノ立場ヨリ建國精神ノ顯現ニ努メ正シキ民意ヲ野ニ在ル協和會員ニ聽キ其行政ヲシテ建國精神ノ軌道外ニ出ツルヲ戒メ又野ニ在ル協和會員ハ朝ニ在ル同志會員タル官吏ノ政治的發動ニ呼應シ率先之カ實踐ニ努メ兩者融合シテ各機能ノ運営ニ熟シ庶政ノ根基大本ニシテ確立スルニ至ツタナラハ軍司令官ノ内面指導ハ大綱ノ把握ノミニ止メ政治、經濟、思想、教化等ノ直接指導ハ眞ノ協和會員ヨリ成ル政府及協和會ノ各首腦者ヲ通シテ之ヲ行ハシメ自ラハ沈黙ノ威信ヲ保持シテ力ヲ統帥ニ傾注スルコトカ可能トナルデアラウ、又斯クアルコトヲ理想トシテアルノテアル

0555

◎滿洲國ノ内面指導ニ就テ

(昭二六、四三三)
關東軍司令部

要 旨

滿洲國ノ指導ハ帝國ノ對滿政策遂行ノ基本國策竝統帥上ノ要望ニ則リ條約協定等ヲ基礎トシ全權大使若クハ軍司令官ヲ通スル公式若クハ祕密ノ指導ト、建國ノ經緯竝實際上ノ必要ニ基ク關東軍司令官ノ行フ内面指導トニ明別シ得ヘク、前者ニ於テハ全權大使ト軍司令官トノ兼任ニ依リ國務ト統帥トノ調和ヲ圖リ其運用ノ全キヲ期シ、後者ニ於テハ帝國ノ對滿基本國策ニ照應シ關東軍司令官滿洲國ノ育成ニ任シアリ

說 明

一、内面指導ヲ關東軍司令官カ行フ理由

(一)建國ノ經緯ニ基ク理由

滿洲國ハ當初關東軍ノ恩威ニ共鳴歸服シタル滿洲人竝之ニ協力蹶起シタル在滿邦人カ關東軍指導ノ下ニ勇躍建國ノ事業ニ參加シ所謂民族協和ノ國家ヲ結成シタルモノニシテ滿洲國ノ首腦部ハ關東軍ヲ産ノ親トシ事實上ノ支柱トシテ信頼シ進テ其指導ニ服シアリ皇帝又歷代關東軍司令官ヲ師

0556

傳トシ其輔導ヲ受ケ、軍ノ威武信賴並其有スル機能ハ滿洲國ニ對シ依然トシ指導者トシテ最適者タルノ地歩ヲ維持シ皇軍ノ存在ハ實質上滿洲國建國完成上ノ骨幹ヲ形成シアリ

(二) 實際上ノ必要ニ基ク理由

滿洲現下ノ主タル構成分子タル滿、漢、蒙各族ハ其習性上動モスレハ比隣ノ策謀ト相俟テ離間中傷ヲ事トシ易ク之カ指導ニ當ルモノハ常ニ強力ナル威力ヲ把持シ其内部的策動ヲ監視シ恩威並施シ適時適切ナル措置ヲ講シ得ルモノタラサルヘカラス殊ニ現下治安ノ情況ト隣邦ノ情勢ハ政治、外交、軍事、經濟等各般ニ互リ一途ノ指導ヲ以テ之等ヲ國防治安上ノ要求ニ歸一セシメ、始メテ滿洲現下ノ情勢ニ適合セル國務ノ圓滑ナル進行ト日滿共同防衛ノ趣意ヲ徹底セシメ得ヘク、即現下焦眉ノ急務タル國防國家ノ建設上關東軍司令官ヲシテ指導セシムルコト絶對ニ必要ナリ又滿漢蒙人ノ政治意識民度文化ノ程度ニ鑑ミルモ強力ナル武力ノ背景ニ依ル指導ヲ必要トシアリ

(三) 制度上ノ理由

抑滿洲國建國ノ意義タル、一ハ以テ帝國國防上ノ要求ヲ充足シ、他ハ以テ民族問題ヲ解決シ延テ東亞ノ安定ヲ策シ八紘一字ノ理想ヲ顯現スヘキ一段階ニシテ、之カ爲滿洲國ハ帝國ト不可分ノ獨立國家トシテ其健全ナル發達ヲ促シアルモノニシテ實ニ前古類例ナキ創造ナリ、從テ滿洲國ノ育成指導方式ハ保護國的色彩若クハ屬領的取扱ヲ避ケ飽迄其獨立ノ面目ヲ尊重シ内面的ニ行ヒ國家

理想ノ達成ヲ容易ナラシムヲ以テ基本トセサル可ラス、從テ内面指導ハ國務輔弼若クハ統帥輔翼ノ範域ヲ離レタル事實上ノ必要ニ基ク行爲ニシテ、實際上最適ノ地位ニ在ル關東軍司令官之ニ任スルモ毫モ憲法上ノ制度ヲ紊ラサルノミナラス却ツテ滿洲國建國ノ根本義ニ透徹スルモノト謂ハサル可ラス

從テ關東軍司令官ノ内面指導ノ事實ヲ認メ、陸軍中央出先密ニ連絡シテ要スレハ國務トノ調和ヲ圖レハ可ナリ

若シ夫レ政治、外交、軍事、經濟等萬般ニ互ル内面指導ヲ國務輔弼若クハ統帥輔翼ノ帝國制度上ノ責任ニ於テ實行スルトキハ總督政治トナササル限り悉ク之等ヲ條約上ニ根據ヲ求メ、自ラ、細部ニ介入拘束スルニ至ル虞アルノミナラス、其是非ヲ議會ニ於テ論議シ責任ノ歸趨上遂ニ滿洲國ノ獨立性ヲ著シク減殺シ其健全ナル發達ヲ妨ケ我對滿國策ノ根本精神ニ背馳スルニ至ルヘシ

二、條約協定等ヲ基礎トスル指導

(一) 以上説明スル内面指導ノ外我對滿政策ノ遂行ハ公式若クハ祕密ノ條約協定等ヲ基礎トシ、公然若クハ祕密ニ行フ方式アリ、之等ハ其運用ニ方リ事ノ性質ト内容トニ應シ主トシテ外務大臣ヨリ全權大使ヲ通シ(日本國內問題トシテハ主管ニ從ヒ各國務大臣輔弼ノ責ニ任ス)若クハ統帥系統ヨリ關東軍司令官ヲ通シ發動顯現セララルル制度上ノ立前トシ、國務ト統帥トノ調和ニ便セシムル

0558

爲全權大使ハ關東軍司令官之ヲ兼任スルコトナシアリ

(二)鐵道水路航空等ノ管理權ノ行使ノ如キハ其或部分ハ國務ニ屬スルモノアリト雖國防上ノ要求ヲ主體トシ運營スルコト妥當且效果的ニシテ日滿議定書附屬ノ祕密交換公文トシテモ軍司令官ノ擔任事項トシテ之ヲ確認セラレアリ、尤モ、此場合滿鐵等カ委託經營スル件ニ關シテハ主管大臣ノ認可事項ナルモ其官制上ノ監督作用ハ其内容ニ及ハサル如ク指示セラレタリ

又日本官吏ノ人事推薦權ノ如キハ所謂憲法上ノ任命大權ノ發動ニアラス滿洲國育成上ノ必要ヨリスル日本側ノ指導權ニシテ滿洲ノ内面指導ト密接不離ノ作用アルヲ以テ之亦軍司令官ヲシテ其任ニ當ラシメアリ

之等ニ關シ樞府及外務省等ノ一部ニハ條約協定公文上「軍司令官」ナル名稱ハ内容上國務系統ニ置キ換ヘラレタリト解釋スルモノアルモ、勿論條約協定ノ締結ニ關スル限り外務大臣等關係大臣ノ輔弼行爲タルモ協定公文上ノ「軍司令官」ハ他迄統帥大權、編制大權上ノ軍司令官ニシテ條約協定ノ限度ニ從ヒ軍司令官トシテノ責任ヲ有ス

(三)之ニ反シ帝制時ニ於テ取換ハセル交換公文ニ基クテ外交協議權、若クハ條約上滿洲電信電話會社ノ監督權或ハ治外法權撤廢第一次條約上ノ協議事項等ノ如キハ其協定ノ性質ニ基キ祕密若クハ公式ノ作用トシテ外務大臣又ハ内閣總理大臣カ夫々全權大使ヲ通シ權限行使ヲ行ヒ之ニ伴フ責任ヲ有

ス而シテ之等條約協定ハ滿洲國助成ノ根本義ニ照シ他迄表面上對等關係ヲ有セシメアリ
日滿經濟共同委員會ノ如キハ國際會議トシテ兩國各々自國委員ヲ監督シ日本側ニアリテ條約上ノ
運營ハ外務大臣之ヲ主管シ内容的ニハ閣議諒解ニ基キ對滿事務局調整ニ任シ各主管大臣ハ夫々事
ノ内容ニ應シ責任ヲ分擔シアリ而シテ之等ハ全權大使ヲ通シ發動スルモ關東軍司令官ノ行フ内面
指導ヲ毫末モ否定スルモノニアラス寧ロ之ト表裏一體ノ作用ヲナシテ其運用ノ圓滑ヲ期シ得ルモ
ノナリ

(四) 統帥事項等ニシテ守勢軍事協定等ニ率由シ滿軍ヲ指揮指導スヘキモノハ陸軍中央部ノ方針指示ニ
基キ關東軍司令官ニ於テ適正ナル指導ヲナシアルモ國防治安ニ關スル軍司令官ノ内面指導ヲ否定
スルモノニアラス之亦内面指導ト相俟チ表裏一體ノ作用ヲナシテ圓滑ナル運用ヲ期シアリ

三、結 言

之ヲ要スルニ軍司令官ノ行フ内面指導ハ全ク建國ノ經緯ト實際上ノ必要トニ基ク事實行爲ニシテ指
導適任者ハ軍司令官ヲ措イテ他ナク其指導ノ緩嚴程度ハ一ハ當時ノ客觀的情勢ニ從ヒ取捨スヘク就
中滿洲國ノ健全ナル發達ニ伴フ日滿共同防衛上ノ鞏化ニ從ヒ逐次其大綱ニ留メ究極暗黙的威力ノミ
ヲ以テ足ルニ至ルヲ理想トスヘク條約協定上ノ指導ト表裏一體ノ作用ヲ以テ其運用ノ適正ヲ期シ得
ルモノナリ特ニ條約協定ノ公式正文ハ獨立國家トシテノ體面ヲ尊重シ對等關係ヲ以テ律シアルモノ

0560

多ク秘密協定ノ運用ニ於テモ所謂内面指導ヲ伴ハサレハ其效果ヲ期待シ難ク之カ爲關東軍司令官カ全權大使ヲ兼任シ之等ノ調和ヲ圖ルノ要絶對ニ必要ナル所以ナリ
而シテ帝國國內制度上ノ問題トシテハ條約協定上ノ示ス範圍ニ於テ夫々關係當局ニ責任行爲ヲ伴フニ過キササルナリ

◎治外法權撤廢ニ付テ

(昭三、三、二五)
關東軍參謀部第四課

一、日本國カ滿洲國ニ於テ保有シテ居リマシタ治外法權ヲ全面的ニ撤廢シ滿鐵附屬地行政權ヲ完全ニ移讓致シマシタ目的精神ニ付テハ既ニ各位ノ十分諒得セラレアル所ト思フノテアリマスカ元來日本國カ世界ノ反對ヲ意トセス敢然トシテ國際聯盟迄離脱シテ滿洲國ノ獨立ヲ尊重シ其健全ナル發達ヲ促進スルノ決意ヲ示サレタルコトハ當時ノ御詔書ニ見ルモ明カナル所テアリマシテ日本帝國ハ滿洲建國ト同時ニ之ヲ日本ト緊密不可分ノ獨立國トシテ育成シ永遠ニ其關係ヲ鞏固ニスルト共ニ全力ヲ傾倒シテ滿洲國ノ健全ナル發達ヲ促進スヘキヲ天下ニ誓フト共ニソノ重責ヲ負擔サレタノテアリマシテコノ建國ノ大精神ゾレ自身カ治外法權ヲ撤廢スヘシトイフ鐵則ヲ暗示シテキルノテアリマシテ從テ治外法權ハ既ニ建國ノ時ニ撤廢セラレタトイツテモ差支ヘナイノテアリマシテ一昨年六月及昨

0561

年十一月ノ條約ノ如キハ全ク其事務的手續ニススキナイトイフヘキテアリマス
換言スレハ滿洲國ニ於テ日本國カ治外法權ノ如キ特權ヲ保有スルコトハ畢竟滿洲國人民トシテ滿洲
國ノ健全ナル發達ヲ促進シ東洋永遠ノ平和ヲ確保スヘキ日本人ノ信念ニ勃ルノミナラス延テ八紘一
宇ノ大精神ニ反スルモノト言フヘキテアリマス

二、從テ滿洲國ニ於ケル治外法權ノ撤廢ハ之ヲ諸外國ニ於テ行ハレマシタ夫トハ斷シテ同一ニ論スヘ
カラサルモノテアリマス

即チ單ニ滿洲國ノ法令カ整備シ日本ノ官吏カ充實シタカラ之ニ對應スル措置ヲトルト言フ様ナ結果
論テハナク前述ノ如ク日本國ハ建國ノ大精神ニ則リ進ンテ治外法權ヲ撤廢シテ積極的ニ滿洲國ノ發
達ニ寄與セントシタノテアリマシテ結局兩國ノ國是カビツタリ一致シテ共同ノ目的ノ爲ニコノ歴史
的事業ヲ遂行シタノテアリマス從テ治外法權ヲ撤廢シタカラトテ他國ニ見ルカ如キ兩國ノ對立關係
ノ如キハ全然考ヘラレス寧ロ兩者ノ關係ハ今後益々緊密ニナルモノテアリマス

三、是迄滿洲國ニ在住セル日本人ハ恰モ日本ニ於ケルト同様裁判テモ警察テモ一カラ十迄日本政府ノ
厄介ニナツテ居リ其ノ反面ニ於テ滿洲國ハ自分ノ國ノ中テアリナカラ日本人ニ對シテハ何トモスル
コトカ出來ナカツタノテアリマス是カ即チ治外法權テアリマス又新京以南ノ滿鐵沿線ノ地域即チ滿
鐵附屬地ニ於テハ日本人タルト滿洲國人タルトヲ問ハス一律ニ日本國ノ行政法令ニ服セネハナラス

0562

コトニナツテ居ツタノデアリマシテ之カ所謂附屬地行政權ト唱ヘラレテ居タノデアリマス
以上ノ治外法權ト附屬地行政權ハ兵事、神社、教育ノ行政ヲ除キ他ハ全部撤廢又ハ其儘滿洲國ニ移
讓サレタノデアリマシテ滿洲國ニ居ル日本人ハ凡テ滿洲國ノ法令ニ服シ裁判ニ服スルト云フコトニ
ナツタノデアリマス

一 昨年六月ノ條約テハ日本人ハ滿洲ノ何處ヘテモ自由ニ居住往來、農、商工業ヲ始メ公私一切ノ業
務ニ從フコトカ出來ルト共ニ土地所有權等土地ニ關スル一切ノ權利ヲ獲得スルコトカ出來ルコト、
日本人ハ滿洲國ニ於テ特定ノ租稅ヲ納メネハナラヌ即課稅權ニ從ハネハナラヌコト及特定ノ產業法
令ノ適用ヲ受クルコトニナリ又滿鐵附屬地内テハ附屬地外ト均衡ヲ保ツ爲ニ關東局テ課稅ヲ實施ス
ルコト及或種ノ產業法規ノ適用ヲ認ムルコト等ヲ規定シテ居ルノデアリマシテ之ヲ治外法權ノ一部
撤廢及附屬地行政權ノ調整ト申シテ居タノデアリトス

四、昨年ノ條約ハ形式ハ條約ト附屬協定ト了解事項トニ分レテ居リ是ハ總括シテ條約ト申シマス又其
ノ内容モ極メテ複雑デアリマスカ之ヲ極ク解リ易ク説明シマスレハ本條約ハ治外法權及附屬地行政
權ハ十二月一日カラ全面的ニ撤廢又ハ移讓セラレ從テ在滿日本人ハ一般ニ滿洲國ノ法令並其ノ裁判
管轄ニ服スルコトナル旨ノ大原則ノ下ニ第一領事裁判權ノ撤廢、第二滿鐵附屬地行政權ノ移讓第
三警察其ノ他一般行政權ノ移讓、第四通信行政權ノ移讓、第五關係職員及施設ノ引繼、第六法權撤

0563

廢後モ日本側ニ保有スル事項、第七日本側ノ權利、利益ノ擁護等ニ付テ規定シテアルノテアリマス
以下其極メテノ大要ヲ申上ケマス

條約ノ根本規定ハ昨年十二月一日カラハ日本人ハ一切ノ滿洲國ノ法令ニ服シテ裁判モ滿洲國ノ管轄
ニ服スル様ニナル然シ日本人ハ如何ナル場合テモ滿洲國人ト比較シテ不利益ナル立場ニハ置カレナ
イト云フコトヲ定メテアリマス尙爲念申シテ置キマスカ條約テ日本人ト申ス場合ハ内地人朝鮮人双
方ヲ含ム意味テアリマス

ソレカラ會社其ノ他ノ法人ニ付マシテモ個人ト同様ニ條約ノ適用カアルコトテアリマス尙是迄滿洲
國內テ本店又ハ主タル事務所ヲ持ツテ居リマシタ日本ノ會社其ノ他ノ法人モ十二月一日カラハ其ノ
儘滿洲國ノ會社其ノ他ノ法人ニナツタノテアリマス但シ日本會社又ハ法人ノ支店又ハ從タル事務所
ハ從來通り日本會社ノ支店トカ事務所トカトシテ其ノ儘存在スルノテアリマス

然シ特別ノ約定ニ基イテ居リマスル特定ノ會社ヤ個人ノ特權例ヘハ滿鐵、滿拓公社、電々會社等ノ
特權等ニハ何等ノ影響ハナイノテアリマス

(一)領事裁判權ニ付マシテハ原則トシテ一切ノ裁判管轄ヲ滿洲國ニ委ネルコトニナツテ居リマスカ之
ニ關聯致シマシテ條約實施當時處理中ノ事項ハ日本側テ完結スルコト然シ條約實施後發覺シタ實
施前ノ犯罪ハ滿側ノ裁判管轄ニ屬スルコト登記及債務名義等ノ效力ハ其ノ儘滿側テ認ムルコト等

ヲ規定シテ居リマス。カ此外滿洲國テハ裁判所、監獄ノ設備及裁判官ノ配置等ニ付テモ整備遺漏ナキヲ期シ以テ法權撤廢後日本人カ直ニ不便ヲ感スル様ナコトノナイ事ニ付テハ十分考慮サレテキルノテアリマス。

尙司法殘務整理ノ爲暫クノ間奉天、新京、哈爾濱、間島ニ領事裁判職員ヲ殘シテ居リマス。カ近ク全部閉鎖ノ運ヒトナルコトニナツテキマス。

(二) 第二ニ滿鐵附屬地行政權モ警察權ト同時ニ滿洲國ニ移讓サレ關東局ノ警察課稅等ノ行政及滿鐵ノ管掌シテキタ教育以外ノ土木衛生等ノ行政モ全部滿洲國側ニ移讓サレタ次第デアリマシテ滿鐵ノ公費ノ如キ滿洲國ノ課稅カ之ニ代ツタコトハ既ニ御承知ノ通りデアリマス。

(三) 第三警察其ノ他ノ行政ニ付マシテモ十二月一日以降附屬地内外共ニ滿側ニ移リマシタカ移讓警察官ノ配置ニ付テハ治安維持其ノ他ノ關係モ考量シテ萬全ノ策カ講シテアリマス。警察以外ノ産業課稅等一切ノ行政モ滿側テ行フコトニナリ茲ニ日本人ハ一切ノ滿洲國法令ニ服スルコトニナツタノデアリマス。

(四) 通信行政ニ付テハ附屬協定(2)ノ規定ニ基キ條約實施ト同時ニ附屬地テ行ハレテ居タ郵便電信等ノ通信及附帶業務カ全部滿洲國側ニ移讓サレタ次第デアリマス。但シ此等業務中例ヘハ年金恩給ノ支給證券ノ保管、國債及債券ノ元利金支拂、郵便年金並第三國ト關係アル郵便電信電話、郵便振替

郵便爲替其ノ他郵便貯金及簡易生命保險ハ當分ノ間ハ日本側カラ滿側ニ委託ノ形式トナツテキマ
ス

(五) 以上述ヘマシタ裁判、警察、通信、滿鐵等ノ關係施設及職員モ大體全部十二月一日ニ滿側ニ現狀
ノママ引繼カレマシタ施設トシテハ外務省テハ警察署、監獄、關東局テハ警察署、遞信官署、稅
務署、保健所、朝鮮總督府テハ病院、公立學校、滿鐵テハ教育施設、病院、道路、橋梁、水道、
公園等デアリマシテ關係職員モ警察官等ヲ初メ總數八千有餘人ニ及ンテ居リマス

(六) 治外法權撤廢ノ除外的措置トシテ兵事、教育及神社ニ關スル行政ノミハ法權撤廢後モ依然トシテ
日本側ニ保有セラレテ居リマス

即徵集服役、召集等ノ兵事ハ軍機關及領事館ヲ中心ニ補助機關トシテ滿洲國警察機關ヲ大使館囑
託トシテ之ヲ行ツテオリマス、教育ハ大體内地人並鮮人初等教育ノ一部ハ之ヲ日本側ニ留保シ共
ノ他ハ滿側ノ行政ニ服シテキルノデアリマス日本側テハ初等教育ハ公法人テアル學校組合ヲ各地
ニ設ケテ又ハ中等學校ニ付テハ新京ニ組合聯合會ヲ組織シテ之ニ當ラシメ此等教育ニ關スル行政
ハ大使館内ニ設ケラレテキル教務部カ行ツテキマス神社ニ付マシテハ日本人ハ氏子總代ヲ作り神
社ヲ經營スルコトカ出來之ニ對スル認可等ノ行政ハ前述教務部ノ所管ニ屬シテキマス
從テ右ノウチ兵事行政ハ別トシマシテ神社、教育行政ノ如キハ滿洲建國ノ眞精神ニ立脚スルトキ

0566

早晚之カ調整ノ必要ヲ痛感スル次第デアリマス

尙英米等現ニ支那ニ於テ治外法權ヲ有シテ居ル國ノ國民ニ對スル取扱ニ付テハ一昨年七月一日
外交部大臣ノ聲明及昨年ノ國務總理ノ聲明及外務局長官ノ説明ノ通り此等外國人ハ寧ロ滿洲國ニ
於テハ條約上ノ權利トシテ治外法權ヲ有スルモノテハナク只滿洲國ノ一方的恩惠の取扱ニ依ツテ
恰モ治外法權ヲ有スルカ如キ待遇ヲ受ケテ居タノテアリマスカ之等ノ特別取扱ヲ廢止シテ一切滿
洲國ノ法令ヲ適用シ裁判ニ服セシムルコトニナシタノテアリマス

五、以上治外法權ノ撤廢ニ付テ一通リ御説明シタノテアリマスカ特ニ私カラ申上ケタイノハ之ニ伴フ
關東軍トシテノ態度ナリ措置ナリテアリマス

ゴノ事ニ關シマシテハ十一月三十日關東軍當局談ニモ明カナル通り關東軍トシテモ治外法權撤廢ノ
眞精神ニ鑑ミ駐兵權ニ基ク軍ノ治外法權的存在ヲ進ンテ調整スルノ大乘的精神ニ立テ滿洲國側ノ申
入レヲ快諾シ關東軍司令官ト國務總理大臣トノ間ニ交換公文ヲ取り換シ日本軍ハ滿洲國ノ法規ヲ利
用シ得ルト共ニ日本軍ノ法規モ亦滿洲國ノ法規ニ服スル者ニモ適用シ得ル事ニナツタ次第デアリマ
シテ從テ最近公布サレタ軍機保護法、國家總動員法、軍刑法、軍審判法、防衛法ノ如キ滿洲國法規
ハ悉ク之ヲ日本軍カ利用シ得ル事ニナツタノテアリマス即チ例ヘハ防衛法テ言ヘハ戰時事變又ハ非
常事態ニ際シ日本軍防衛司令官ハ滿洲國ノ防衛法ヲ準用シテ防空、警備等ヲ管掌シ或ハ軍事又ハ保

安ニ關スル行政ヲ管掌シ得ルノテアリマシテコノ際日本ノ法ハ發動セラレナイノテアリマス
又日本軍憲兵ニツキマシテモ滿洲國ノ法令ヲ適用シテ滿洲國ノ法權ニ服スル者ニ對シ別ニ定メラル
ル所ニ從ヒ軍事警察權、司法警察權、行政警察權ヲ行使シ得ル事ニナツタ次第テアリマス
從ヒマシテ從來不文律慣行のニ措置サレテキタ軍ノ治外法權的行動ニ付テハ特ニ反省シ軍關係者カ
率先シテ治外法權撤廢ニ範ヲ垂レルコトカ必要テアリマシテ之カ爲ニハ滿洲國ノ法令ヲ深ク研究ス
ル必要カアルノテアリマシテ徒ラニ防牒等ノ名目ノ下ニ滿洲國ノ法權ニ服スルコトヲ忌避スルコト
ハ斷シテ許サレナイ行爲ト思フノテアリマス

尙最後ニ一言シタキハ治外法權撤廢カ以上ノ如キ大乘的精神ニ出發シテキルノニ拘ラス尙未タニ日
本人ノ一部ニコノ精神ノ理解力足ラヌト思ハレルモノカアルノハ甚タ遺憾トスルモノアリマス即チ
例ヘハ徒ラニ日本人タケノ團體ヲツクツテ他民族ト遊離シ或ハ日本人タケノ行事ヲヤツテ他民族ト
ノ融和ヲ害スルカ如キ舉ケ來レハ其例決シテ尠クナイノテアリマス

之等ハ勿論必スシテ惡意カラトノミハ解シ得ナイノテアリマスルカコレ等ノ事カ動モスレハ日本人
タケカ特殊ノ待遇ヲウケ或ハ特殊ノ行動ヲ許サレルカノ如キ所謂治外法權的存在ノ感シヲ與ヘ延テ
他民族ニモ同様ノ對立的團體ノ發生ヲ醸成シ結局滿洲國ノ健全ナル發達ヲ妨ケルトイフ事ニモナル
ノテ此點ハ御互ニ深ク反省スル要カアルト信スルモノテ此意味ニ於テ近ク結成セラルヘキ滿洲國防

0568

婦人會ノ如キハ全ク治外法權撤廢ノ本義ニ合致スルモノテアリマシテ斯クシテ各民族互ニ融和提携
スルコトニヨリ精神上ニモ形體上ニモ眞ニ日滿一體ノ實ヲ揚ケ得ルモノト深ク信スルモノテアリマ
ス

基本篇

三七

0569